タマシギ　*Rostratula benghalensis* (Linnaeus)

【選定理由】

平野部の淡水湿地、主に水田に生息して繁殖するが、近年は生息数が激減した。繁殖期間が長く、冬期の確認例も少なくない。都市化や道路建設等により生息に適した環境が消失し続けており、繁殖場所としてある程度の面積のある水田地帯で、夜間に人工光や騒音の少ない環境が必要であることから、近年急激に生息数が減少している。

【形　態】

全長 23～28cm、翼開長 50～55cm。成鳥雄は、頭部から上面は暗褐色で黄褐色の頭央線があり、目の周辺にはまが玉型の黄褐色の斑がある。肩から背にかけて黄褐色の線、肩から胸にかけて太い白線がある。成鳥雌は、目の周辺の斑が白色で、顔から上胸が赤褐色、上面は暗緑褐色で下面が白く、雄に比べて鮮やかである。

愛知県安城市, 2017 年 8 月 16 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

沿岸部から里山に広がる水田まで、県内平野部の淡水湿地に広く生息して繁殖するが、冬期は生息数が少なくなる。

【国内の分布】

主に本州中部以西に周年生息し繁殖するが、宮城県や山形県でも繁殖が確認されている。北陸地方以北のものは冬期に南下する。

【世界の分布】

インドから東南アジア、中国、アフリカ、オーストラリアに分布し 2 亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

平野部の水田や淡水の湿地を好み、かつての減反政策で存在した休耕田は、本種の繁殖場所としても、餌となる水棲生物や土壌生物の生息場所としても最適な環境であった。

繁殖期は 5 月から 10 月頃で、湿田の畦など地上で営巣し、雌は繁殖期の夜間に、コーッ、コーッ、と続けて鳴く。冬期は小群で生息するが、夏期よりも確認される数は少ない。

【現在の生息状況／減少の要因】

かつての愛知県は本種の生息数の多い県であったが、近年ではその姿を確認することも困難になっている。稲作の減反政策で休耕田が多かった頃までは、愛知県には本種に限らず淡水性の水鳥が数多く生息していたが、休耕していた田に、隔年で麦や大豆への転作が行われるようになると、営巣環境が減少しただけでなく、餌となる水棲生物が消失したことで生息数が激減している。

【保全上の留意点】

干拓地や埋立地の遊休部分に、淡水や汽水の湿地環境を復元する努力が必要である。水田の一部を借り受けて休耕田、あるいは水田の一部の転作作物を飼料米等に限定し、冬期湛水も実施するなどして湿田の環境が継続されるようにすることが必要である。

【特記事項】

鳥類の中でも、1 妻多夫の形で繁殖を行う種は限られており、国内に生息する種では本種とミフウズラだけである。雌は声でテリトリー宣言を行って卵を産むだけで、抱卵や育雛は全て雄が行う。雌のテリトリーの中に、通常は複数の雄の巣がある。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.112. 世界文化社, 東京.

（高橋伸夫）